開催協議会名	令和４年第３回隠岐の島警察署協議会	
開 催 日 時	令和４年９月９日（金）午後２時00分から午後４時00分まで	
出　席　者	協議会委員	４人（松岡会長、山根副会長、柳原委員、石川委員）
	警　察　署	８人（署長、次長、生活安全刑事課長、警備課長等）
見　　学	職員による運転訓練の見学	
体　　験	車両の死角・運転訓練等の体験	
写　　真	☜【職員による運転訓練の見学】 【委員による運転訓練体験】☞ ☜【委員による運転訓練体験】	

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">【死角体験】☞ </td></tr>
<tr><td rowspan="3">会議・協議</td><td rowspan="3">署長からの諮問等</td><td>諮問事項１</td><td>島根県警察における職員事故の態様について</td></tr>
<tr><td>説明概要</td><td>【総務係】
会議・協議に先立ち、職員による運転訓練の見学、車両の死角・運転訓練等の体験を実施し、その後、会議・協議において、職員事故の態様・事故防止の取組等について説明した。</td></tr>
<tr><td>答申（意見等）</td><td>【委員意見１】
車が少し大きくなっただけでも、道路のラインを踏んでしまう。常にベストな状態でいるためにも訓練は大切だと感じた。
【委員意見２】
家庭で何か問題があったとか、次の仕事が気になってそれに気を取られていたとか、そのような心理的な原因があるから、普段はしっかり見ていた場所を見落とすといったことが起こる。事故には、技術以外の原因もあり得る。
事故をした方の、事故当時の心理的な状況等の聞き取りをして、その原因を明らかにすることで、仕事の進め方が変えられるのではないか。
事故をした方が、事故の原因を振り返る場面を作ってあげることが大切だと思う。
【委員意見３】
訓練を見学した際、実際の緊急時を再現するため、タイム設定等で訓練員にプレッシャーをかけると伺った。
また、ただ見学しているときと、実際に人前で訓練するときとでは、精神的なプレッシャー</td></tr>
</table>

			や緊張感も全く違うことがわかった。この緊張感やプレッシャーは、訓練をする上で非常に大切だと思う。 　緊張感の中で普段どおりのことができてこそプロであるし、できて当たり前になるくらい訓練をすることが大切である。 【委員意見４】 　普段できていることができなくなるということは、内面的な原因があるはず。予兆が見えれば、声を掛けてあげて、必要があれば休暇を取らせるなどの対応も必要である。 【委員意見５】 　失敗を恐れている人が多い。本番で失敗をしないために、訓練で失敗することが大切だと思う。 【委員意見６】 　実技的な訓練も大切ではあるが、事故事例をどんどんオープンにして、それに基づいた研修会等を開催し、原因を究明するなどしてみてはどうか。 【警察署回答１】 　御意見のあったように、事例に基づいたＱＣ活動等を行っているほか、職員によるヒヤリハット集を作成するなどの活動を行っているが、継続することが大切であると認識している。
	署長からの諮　問　等	諮問事項２	コロナ禍における雑踏警備の実施について
		説明概要	【署長】 　資料を配布し、コロナ禍における隠岐の島警察署の雑踏警備の実施について説明した。
		答申（意見等）	【委員意見１】 　コロナ禍のため、隠岐の島におけるイベントの雑踏警備の経験がない署員に対して、問題意識を持って経験を積ませていることに非常に感心した。イメージを持ってもらうだけで、役場との話合いのための事前準備ができて、物事が

			スムーズに進むと思う。 【委員意見２】 　話を伺い、雑踏警備は地元、主催者、役場との連携が大切であると感じた。主催者はどうしてもにぎわいに重きを置くが、コロナ感染拡大防止や事故防止のため、そこにブレーキをかけることも必要であろう。常に連携を大切にしているからこそ、そういった話合いも円滑にできているのだと思う。